



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒
〈重点目標〉 自らよく考え、やり抜く生徒 **～夢の実現～**

原町三中だより

令和元年6月7日（金）
 第7号
 発行責任者
 校長 鈴木 太
 電話 22-3802

第1回PTA親子奉仕作業 6 / 1（土）

6月1日（土）7時より、「第1回PTA親子奉仕作業」を実施しました。朝から強い日差しでしたので、熱中症やケガが心配されましたが、無事終了することができました。お陰様で校庭の南側やテニスコート北側の斜面、校門から校舎までの花壇がたいへんきれいになりました。

お休みのところ早朝より多数の保護者の皆様に参加していただき、まことにありがとうございました。今後とも本校PTA活動へのご協力をよろしくお願いいたします。



文化芸術による子供育成事業ワークショップ 6 / 3（月）

6月3日（月）5，6校時に、「文化芸術による子供育成事業ワークショップ」を実施しました。これは7月11日に行われる文化芸術による子供育成事業で「能・狂言」を鑑賞するにあたり、生徒の皆さんに「能」「狂言」についての理解を深めてもらい、本公演で楽しみながら鑑賞できるようにするために行ったものです。

ワークショップでは、最初に実演から始まり、能楽の解説をしていただく中で、独特の所作（動き方）や狂言の発声などに圧倒されました。生徒の皆さんも、構えから歩き方、そして怒りや悲しみの動きを丁寧に教えていただきました。

次に能楽の歴史をスライドで説明していただき、バーチャル能楽堂動画体験をしました。

最後に、2つのグループに分かれ、能面を顔に掛けたり、装束を羽織る体験をしました。能面のほんのわずかな動きで感情の機微を表すことに驚きました。

生徒の皆さんは、能楽師の方々に直に接しながら、さまざまな体験を通して日本の伝統芸能である「能」「狂言」を全身で体感できたと思います。日本古来の精神・文化に触れる貴重な機会でしたし、一生の中でなかなかできない体験だったのではないのでしょうか。



能の実演



深い悲しみを表すモロジオリ



能面を掛ける体験



装束を羽織る体験

文化芸術による子供育成事業 ～能・狂言の鑑賞～

- 日時：7月11日（木）13：30～15：20
- 場所：原町第三中学校体育館
- 出演：宝生会（出演者19名）
- 内容：(1) 狂言「柿山伏」
 (2) 能の役割の紹介
 (3) 囃子方の実演と解説
 (4) ワークショップで覚えたシオリと付祝言「高砂」
 (5) 能「黒塚」

◎保護者の皆様も鑑賞できますので、ぜひ足をお運びください。

※シオリ・・・泣いていることを表す所作。指を伸ばした手を、顔より少し離れた前方で目を覆うように上げて、こぼれる涙をおさえる動きをする。